

## 令和7年度 小豆餅ゆすらうめこども園 自己評価まとめ

昨年度より引き続き、「自律」「当事者意識」をテーマに子どもも職員も思考を整え生活や保育を見つめた。子どもと対峙する大人の捉え方、考え方で子どもの自律を促し、教育保育目標の「一人ひとりを大切にし、生きる力を育む」の実現に向かう。

また、こども家庭庁の提言している「はじめの100か月の育ちビジョン」は子どもも保護者もウェルビーイングを目指す。保育者もまた同様である。『幸せに毎日を過ごす』ことが最上位目標である。

職員は自分の行動を振り返ってみる→職員同士連携をする（意見を出し合う、相談し合う、確認し合う、励まし合う）大人の気持ちのコンディションいろいろ→他人のせいにしない。迷った、わからない時は、助けを呼ぶ。部屋を超え助け合う。その大人の姿を子どもに見せる。

それは、子どもの姿にも確実に反映され、異年齢で関わる子どもたちの自然な姿が見られるようになった。

保護者には、保育者はあくまでも保育の中で対応している内容を伝える。

判断のことは専門家に伝えてもらう。

園長は、職員をサポートし保育を助け、職員の心身を守る（カスタマーハラスメントから守る）

ゆすらうめの子どもも大人（職員、保護者も）も、自分で考えて決めて（自分はどうしたい？）行動（報告、連絡、相談）し実行する。自律をめざし、幸せに生きる。

令和8年度に向けて

「連携」そして、「語り合える風土作り」をかかげていくこととした。

- ・誰もがなんでも話しやすい雰囲気を作る（気持ちを伝える、お互いを認め合う）
- ・子どもにとって何が最善なのかの視点で思考を重ねる⇒園内研修の実施
- ・自分自身の最上位目標に向けて、自分時間を大切にする（プライベートの充実、自主研修の参加など）。各自それぞれが最上位目標に向けて課題を持ち、学び、ステップアップを目指す。